

Ⅱ. 学習計画の考え方（2025年度以降生）

1. はじめに

大学での学習計画は、二つの軸を中心に考えるとよいでしょう。大学で自分が学びたいことと、将来（卒業後）の目標です。

神学部では主として「キリスト教」「ユダヤ教」「イスラーム教」の3つの宗教に関連する科目を学ぶことができます。まずは、自分の関心のある宗教を中心に学習を組み立てましょう。自分の関心が明確ではない場合には、各宗教の基礎科目を受講しながら自分の関心を探りましょう。また、自分の関心領域に合わせて、英語と英語以外の外国語科目の語学の能力を高めましょう。神学部は、その他の学問分野も広く学べるカリキュラムになっています。全学共通教養教育科目や他学部科目を履修し、他の分野の知識も積極的に身につけてください。自分の主たる関心を土台としながら、その他の分野においても系統だった科目履修をすることによって、副専攻となるような「自分のテーマ」を設定することができます。

もう一つの軸となるのが、将来（卒業後）の目標です。目標を具体的に設定することは簡単なことではありませんが、早い段階で決めることによって、大学を将来の目標に向かっての準備の場として有意義に学ぶことができます。例えば、多くの人が選ぶ一般就職の場合、希望する職種と関連する分野の科目を履修すればよいでしょう。キリスト教関係の職種をめざす場合でも、様々な分野の科目を履修することは、自分自身の幅を広げる貴重な機会となります。具体的には、英語の他、関係する外国語、法学、国際政治学、社会福祉学、社会学、経済学、商学、スポーツ科学などの分野、あるいは「アメリカ」や「ヨーロッパ」や「アジア」といった自分の将来進みたい進路に近い分野を学んでいくことができます。また、学年が進むにつれて、関心も進路も定まってくると思いますので、軌道修正しながら、履修科目を編成していくことが可能です。

実際には、この上記の二つの軸のバランスをとりながら学んでいくことになります。

2. 神学部のカリキュラムについて

神学部のカリキュラムは、1類（神学に関する科目）、2類（外国語科目）、3類（その他の科目）に大別されます。それぞれ卒業に必要な修得単位数が決められています。この単位数を踏まえながら、上記の二つの軸を活かして、具体的に履修する科目を定めていきます。1類は、神学部唯一の必修科目「神学入門」と、キリスト教、ユダヤ教、イスラーム教を中心に、基礎の学びとなる基礎科目、より専門的な内容を扱う展開科目、特定のテーマに絞ったトピック科目から構成されます。1・2年次のうちに基礎科目を履修し、3つの一神教についての基礎的知識を身につけながら自分の関心領域を定め、展開科目、トピック科目を重ねていくことをお勧めします。さらに、神学部では、領域横断科目として、実社会でフィールドワークを行う科目、一神教を横断的に俯瞰的に学ぶ科目、学術的思考のための技術や手法を習得する科目、より専門的に神学を学ぶための英書や独書の講読科目を設置しています。また、2類では、全学共通教養教育科目の外国語科目に加え、神学部独自の外国語科目を提供しています。自分の関心、進路、さらに神学部の各領域での推奨言語を参考にして、外国語を履修しましょう。3類では、神学部以外の授業からも多くの単位が認められます。このような様々な科目を自分の関心と目標に即して履修しながら、専門性と幅広い教養、知見を備え、社会に積極的に関わる人間となることを目標に、神学部での学びを積み上げましょう。

3年次になりましたら、ぜひ関心のある領域の演習を履修してください。少人数の演習で、自主的に自らの関心を掘り下げ、思考、表現することが可能になります。4年次生では、演習での学びを踏まえて、卒業論文に取り組んでください。神学部では「卒業論文」を必修としていませんが、自分で関心のあるテーマを設定し、文献収集から構想、そして執筆、校正といった段階をやりぬくことは、大学での学びの集大成であ

り、貴重な体験となります。

卒業論文について

神学部では、4年次に「卒業論文」を科目登録していないと提出できませんので、注意してください。卒業論文のテーマはキリスト教、ユダヤ教、イスラーム教、そのほか広く宗教に関するものを選ぶことができます。学際的にいくつかの領域にまたがるものであってもかまいません。しかし、卒業論文は自己流に書けばよいというのではなく、学問的な方法に従って研究を行い、まとめるものですから、指導教員との密接なやりとりが必須です。指導は原則として演習科目（ゼミ）を通じて行われますので、指導を希望する教員の演習を春学期、秋学期とも履修してください。誰に指導してもらったらいいかわからない時は、身近な教員に相談すれば情報が得られるはずです。

3. 進路について

神学部の卒業生の進路は、大きく3つに分かれます。一般就職、教会教職および学校教職、大学院進学です。

■一般就職をめざす学習計画

—— キリスト教を中心に一神教についての広い教養を身につけ、卒業後一般就職する

一般就職をめざす方は、1・2年次には、基礎科目や外国語を中心に履修し、幅広い分野で基礎的な知識を身につけてください。希望する職種が早く決まれば、その職種に関連する科目を早い時期から受講することも可能になり、就職の準備となります。3年次には「キャリア・ガイダンス・セミナー1・2」を必ず履修してください。先輩に就職活動の体験を語ってもらったり、就職に関する情報の提供を行うなど、神学部の強みを活かした就職活動をサポートします。演習も履修してください。問題の見つけ方、分析の仕方、プレゼンテーションのスキルを身につけることができますし、教員や学生との交流を深める機会も得られます。また本学のキャリアセンターを通して就職の支援を受けることができます。キャリア支援システム「e-career」で進路希望登録をしてください。

■教会教職をめざす学習計画

—— 牧師・伝道師を志望する

教会教職の資格は各教派によって異なります。日本基督教団の場合、補教師試験を受ける基礎資格は教団に所属する教会で信徒として3年以上在籍し、信仰生活を送っていることです。教会教職をめざす先輩の多くは大学院神学研究科博士課程（前期課程）に進んでいます。補教師試験受験のためには、神学部と神学研究科で必要科目を履修する必要があります。必要科目を履修していない場合には、いくつかの検定科目を受験する必要があります。詳細は、入学後のオリエンテーション期間に開催する「補教師試験受験ガイダンス」で確認してください。

教会教職をめざす場合、神学の各分野をバランスよく履修し、かつ専門的に学ぶ必要があります。聖書の言語である聖書ヘブライ語や新約ギリシア語の習得も大切です。またユダヤ教、イスラーム教の科目を履修することも将来役に立つでしょう。

■学校教職をめざす学習計画

—— キリスト教主義中学・高等学校の宗教科教員を志望する

教員になるためには教育職員免許状を取得する必要があります。神学部では宗教科の免許状を取得できません。宗教科の教員になる場合には、教会教職と同様に、高度の神学的素養、教会生活の経験が要求されます。多くの場合、大学院神学研究科博士課程（前期課程）修了が望まれます。

学校教職をめざす場合にも、神学の各分野をバランスよく履修し、神学についての幅広い知識を身につけておく必要があります。キリスト教だけでなく、ユダヤ教、イスラーム教の科目も履修しておくことが大切です。

教職課程の履修については、「Ⅵ. 2026 年度免許・資格関係科目」の「■免許・資格関係科目と自由科目について」（60 ページ）と入学年度に応じた『免許・資格関係履修要項』を参照してください。教職課程のカリキュラムは入学年度によって異なりますので、必ず自分の入学年度の『免許・資格関係履修要項』を参照してください。

■大学院神学研究科への進学をめざす場合

大学院神学研究科博士課程（前期課程）には、神学専攻の1専攻が設置されており、その下に聖書神学研究コース、歴史神学研究コース、組織神学研究コース、実践神学研究コース、一神教学際研究コースの5コースがあります。各コースとも研究テーマによって準備することが違いますので、各領域のページを参考にし、なるべく早い時期に希望するコースの教員に相談してください。

大学院入学試験についての詳細は『大学院入学試験要項』に記されていますので確認してください。前期課程の入学試験は入学前年度の9月頃、及び年度末の2月頃の2度の受験機会があります。また3年次で受験できる「飛び級」の制度もあります。毎年6～7月頃に大学院入学試験についての説明会が行われます。試験日程等については、各年度の入試要項を確認してください。

キリスト教神学の学習計画

1. キリスト教神学について

キリスト教神学とは、キリスト教の教義、実践、歴史、思想、文化、キリスト教から派生した事象を対象とする体系的な学びです。また、それらが人間行動や社会形成にどのように影響を与えているかを探る学問でもあります。具体的には、例えば「神とは何か」「悪はなぜ存在するのか」「死んだらどこへ行くのか」といった問いに対して、キリスト教の視点から答えを探求します。また、キリスト教の美術、音楽、文学、映画、アニメなどの関連する諸現象も研究の対象であり、キリスト教信仰の有無を問わず、神学の学びには大きな価値があります。EU加盟国やアメリカ合衆国に住む人々の70%以上、韓国では30%以上がキリスト教徒ですから、これらの国の文化や社会を深く理解するためにも、神学の学びは不可欠です。キリスト教について神学的（信仰的）な側面からどのように学べばよいかわからない場合でも、キリスト教圏における文化的側面からアプローチすることが可能です。

キリスト教神学にはいくつかの分野がありますが、その内の主要なものは以下の4分野です。

- ・聖書学（Biblical Studies）：聖書学は、キリスト教の聖典である旧約・新約聖書の内容、構造、歴史的背景、文学的特徴などを分析・解釈する分野です。この分野は、他の神学の分野に対する基盤を提供するものですので、初年次からしっかり学んでください。
- ・歴史神学（Historical Theology）：歴史神学は、キリスト教の歴史を通じて展開された神学的思考や事象を研究する分野です。この分野では、初代教会から現代に至るまでの神学的な議論や歴史的な出来事が、どのように成立・展開し、キリスト教の信仰や実践、また世界に影響を与えてきたのかを探求します。
- ・組織神学（Systematic Theology）：組織神学は、キリスト教の信仰を体系的に整理し、統一的な枠組みの中で理解することを目的とした分野です。この分野では、神の本質、創造、罪、救い、終末などのテーマや、神学者の思想などを探求します。
- ・実践神学（Practical Theology）：実践神学は、キリスト教信仰やその思想を日常生活や教会の実践にどのように適用するのかについて考える分野です。この分野では、理論と社会における実践を橋渡しする役割を持ち、神学が社会や人々の生活にどのような貢献ができるのかを探求します。

神学部では、上記のキリスト教神学の4分野に加えて、キリスト教文化学、宗教学に分類される科目も提供しています。キリスト教を中心に学習計画を立てる場合でも、一神教の多面的な理解を深めるためにユダヤ学やイスラーム学の科目も積極的に取り入れることをお勧めします。

2. キリスト教神学の基本的な学び

基礎科目・トピック科目

神学部では必修科目の数を極力減らし、学生の科目選択の自由を尊重していますが、1・2年次には神学の4分野それぞれに設置されている基礎科目を網羅的に学ぶことを推奨しています。例えば、聖書学であれば「新約聖書学入門1・2」、歴史神学であれば「歴史神学概論1・2」、組織神学であれば「組織神学入門」、実践神学であれば「実践神学入門1・2」が基礎科目に該当します。演習などのより専門的な科目が登録できるようになる3年次までに可能な限り多くの基礎科目を履修し、自分の適性と興味関心を見極めてください。各分野の基礎科目と並行して、パイプオルガンやゴスペルなどの実技を中心とした学びを提供するキリスト教文化学のトピック科目や、ひとつの宗教に限定されない領域横断科目、また、一神教以外の様々な宗教について学ぶ宗教学などにも、1年次より履修できる科目がいくつかあります。配当年次とシラバスを参照して自分の関心に合うものを履修してください。

キリスト教神学の学びを深めるための語学の選択

外国語の選択は、神学部で専門的に学びたい内容と関連するものを選ぶようにするとよいでしょう。聖書の学びを深めたい方は、神学部で開講している新約ギリシア語や聖書ヘブライ語をぜひ履修してください。選択に迷った場合は、伝統的に神学研究の層が厚いドイツ語を選択されることをお勧めします。

3. キリスト教神学の学びの発展

展開科目・演習・卒業論文

神学部では、2年次より展開科目、そして3年次より演習科目が履修できるようになります。初年次に基礎科目やいくつかのトピック科目を学んだ後、自分の関心がある分野の展開科目や演習科目を履修するようにしてください。演習科目は、一般的に「ゼミナール（ゼミ）」と呼ばれる小規模クラスのことを指し、演習担当教員の指導の下で学生が自らの研究テーマを設定し、ゼミ発表と討論を行う形式で進められる授業です。演習のクラスによっては、フィールドワークやゼミ合宿、ゼミ旅行を行う場合もあります。演習科目で深めた研究テーマは、卒業論文を執筆することで4年間の学びの集大成として形に残すことができます。ぜひ積極的に執筆することをお勧めします。

海外留学

同志社大学の海外留学制度（40ヶ国・210大学以上）に加え、神学部独自の制度として、チューリヒ大学神学部（スイス）、メソジスト神学大学校（韓国）、ハイファ大学人文学部（イスラエル）と学部間交流協定に基づく派遣留学を実施しています。これらの大学への留学を希望される方は、初年次より留学の計画を綿密に立て、現地の大学で授業に参加できるように、必要な語学をしっかりと学んでおきましょう。

4. 進路

一般就職・牧会者・研究者

多くの学生は一般企業に就職しますが、牧会者（教会の牧師、病院や福祉施設などのチャプレン）、中学高校の聖書科教諭、研究者をめざす学生も毎年一定数います。神学部では一般就職をめざす学生のために「キャリア・ガイダンス・セミナー1・2」という科目を設置し、学生の就職活動を支援しています。牧会者をめざす方は、大学院の神学研究科へ進んでいただき、牧会者に必要な神学の学びを深めてください。研究者をめざす方については、キリスト教神学や宗教について学びたい場合は神学研究科、神学以外を学びたい場合は他大学の大学院へ進学します。どちらの場合も大学院で指導を仰ぎたい教員にあらかじめ相談し、研究テーマや研究計画を立ててから大学院入学試験に臨んでください。大学の4年間は長いようですぐに過ぎていきます。卒業後の進路や就きたい職業など、将来の計画を可能な限り具体的かつ早く立て、目標を決めてから逆算して4年間の過ごし方を決めましょう。

ユダヤ学の学習計画

1. ユダヤ学について

ユダヤ学とは、70年エルサレム第二神殿崩壊後、離散と迫害と放浪の歴史をたどったユダヤ教、ユダヤ教徒／ユダヤ人に関わる歴史、思想、文化、政治、経済、生活、言語、芸術、あらゆることに関する学問です。ユダヤ教徒は今も世界人口の0.2%に過ぎませんが、一神教の祖として、また文化、思想、科学、芸術、人間の営為の様々な場面で大きな影響を果たしてきました。学問としてのユダヤ学（Wissenschaft des Judentums）は、19世紀末のドイツで成立しました。ホロコースト（ショア）の苦難を経ましたが、今日では、ユダヤ学は学問の重要な一分野として、ハーバード大学など欧米の著名な大学にはユダヤ学研究センターが存在しています。日本の学術界において、ユダヤ教を学ぶための総合的なカリキュラムを提供しているのは本学だけです。現代ヘブライ語の学習を始めとし、ユダヤ的事象の根底にあるユダヤ教の思想、歴史も踏まえ、ユダヤ教がもたらした営為を俯瞰的に考察し、日本のユダヤ教研究を牽引することをめざしています。また、キリスト教研究、イスラーム教研究との学際的研究ができるのも本学部の特長です。本学のユダヤ学では、ヘブライ語聖書の背景となる古代近東世界について学ぶ古代近東学科目も提供しています。

2. ユダヤ学の基本的な学び

現代ヘブライ語の習得・外国語の習得

ユダヤ学を専門的に学びたい人は、現代ヘブライ語をぜひ履修してください。現代ヘブライ語は、現在のイスラエルを中心としたユダヤ人社会や西欧や中東のユダヤ文化を知るための重要なツールとなります。学部時代に現代ヘブライ語を本格的に身につけるなら、稀有な言語能力として高く評価されることでしょう。また、現代ヘブライ語によって、聖書ヘブライ語の語感を身につけることができます。世界の中の特定の地域のユダヤ教を深く知りたい場合には、その地域の言語も学ぶことが必要になります。

ユダヤ学の基礎科目

神学部では、基礎科目として「ユダヤ学入門1・2」と「ユダヤ史概説1・2」を提供しています。これらの基礎科目でユダヤ教の全体像をつかみ、各自の関心に合わせて学びを深化させてください。ユダヤ教についての基礎知識は、キリスト教、イスラーム教の理解においても重要です。イエスが生まれ、活動した第二神殿時代末期のユダヤ教社会を知ること、イエスの運動の意味がより深く理解できます。また、中世、近現代のイスラーム世界の中でのユダヤ教共同体の歴史は、現在の様々な国際問題の考察において重要です。授業では随時、参考文献を紹介しますので、関心のあるテーマについては各自で掘り下げてください。

基礎科目と並行して、ユダヤ教の基盤となるヘブライ語聖書（旧約聖書）に親しんでください。ユダヤ教の思想、文化はヘブライ語聖書とその聖書解釈を基盤としているからです。また、現在のユダヤ教の基盤が形成されたラビ・ユダヤ教と同時代の新約聖書についても総合的な知識があることが望まれます。

3. ユダヤ学の学びの発展

展開科目・トピック科目

ユダヤ学領域では、中世ユダヤ教や近現代のユダヤ教に特化した科目やユダヤ文化論を展開科目として提供しています。基礎科目に加え展開科目まで学ぶことで、近現代のユダヤ教とその社会の問題、政治、外交問題について深く学ぶことができます。また、3つの一神教の関係の諸相を俯瞰的に学ぶことができます。特定の地域のユダヤ共同体の歴史と文化など、テーマを掘り下げるトピック科目も提供しますので、合わせて履修してください。ユダヤ教が生み出したタルムードやカバラなどのユダヤ教文献研究を専門にしたい場

合には、アラム語文法を身につけ、ユダヤ教文献講読で読解力を磨きましょう。また、膨大なユダヤ教文献を扱うスキルを学ぶことも必須です。

他学部科目など

ユダヤ学の科目の学びに並行して、神学部他領域の展開科目、また他学部の科目にも関心を広げていただきたいと思います。欧米文化論、思想、哲学、政治学、国際関係論、欧米文化などユダヤ学は全ての領域に関わります。自分の関心のある分野の概論、方法論を身につけることも必要です。神学部のカリキュラムの自由度を有効に利用して、他分野の授業や他学部設置科目にも興味をもってください。

演習・卒業論文

神学部では体系的にユダヤ学を学ぶための科目を提供していますが、講義で対応できる範囲は限られています。自分が特に興味を感じる点については、3年次以上対象の演習を履修し、自発的に自分のテーマを掘り下げてください。演習では、年度ごとに設定したテーマに沿った文献資料や参考文献を精読します。同時に、履修者の個々人が関心をもったテーマについて自律的に研究を進める場となります。関連する原典資料、文献資料、参考文献を探し出し、読み込む力を養うことになります。神学部でユダヤ学を中心に学んだ成果を活かし、各自の関心に沿った卒業論文を集大成として作成することを強く推奨いたします。

海外留学

神学部では、ハイファ大学（イスラエル）との交換留学制度があります。また、同志社大学としてもエルサレム・ヘブライ大学（イスラエル）との交換留学の制度があります。また、世界中にユダヤ共同体は存在します。世界のユダヤ社会を実際に体験することは、ユダヤ教を体感する上で非常に重要です。また、イスラエルでは現代中東世界の問題を体感することが可能です。研究者をめざす場合は特に、そうでない場合も、ユダヤ社会での体験は異文化理解に大いに役立ちます。

4. 進路

一般就職

ユダヤ学を中心に学ぶことで、その時代、地域の広範囲さから世界の多様な問題を知ることになります。特に世界のビジネス、文化の様々な部分で影響力を発揮しているユダヤ教徒／ユダヤ人について、体系的な知識を身につけていることは、有力な利点となるでしょう。この専門性を活かして海外・国際関係の諸機関の職員、マスコミやジャーナリズムへの就職も可能です。そのためには、専門を極め、英語、現代ヘブライ語を始めとした高い語学力を身につける必要があります。

大学院進学

ユダヤ学を研究者として極めたい場合には、大学院に進学し、研究を進めていくことになります。本学神学研究科一神教学際研究コースや他大学大学院、海外の大学院に進学し研鑽を積みます。そのためには、英語、現代ヘブライ語の能力を高め、自分が対象とする分野において必要とされる他の言語、また、その領域における方法論を身につける必要があります。また、資料を収集し、分析し、学術的論文を執筆するための力を身につける必要があります。大学院に進学することを考えている学生は、早いうちから語学力を高め、アカデミックスキルを磨き、ものごとを掘り下げて考える思考力を高めてください。最近では、博士前期課程（修士課程）を修了し、一般企業に就職する人もいます。

イスラーム学の学習計画

1. イスラーム学について

イスラーム教は、西暦7世紀前半の中東で成立し、キリスト教、ユダヤ教と様々な関係を取り結びながら、北アフリカ、中央・南・東南アジアへと広がり、現在の世界でイスラーム教を信仰する人々（ムスリム）は20億人を超えようとしています。「イスラーム学」（Islamic Studies）とは、イスラーム教の教義や思想、ムスリムたちの歴史や社会や文化、現代の政治や国際情勢におよぼす影響など、イスラーム教とムスリムたちに関する研究全般を指します。イスラーム学の学習においては、イスラーム教の基本的な教義・思想を知ることが基礎として、時代や地域ごとに様々に異なるムスリムたちの社会や文化、政治などを多角的に見るとともに、それらの多様性をつなぐ宗教としてのイスラーム教を考えていきます。確かな知識と幅広い視野に基づいてイスラーム教とムスリムたちに関して自分なりの課題を見だし、その課題に関する研究に主体的に取り組む姿勢と能力を身につけることをめざしてください。キリスト教神学・ユダヤ学とともにイスラーム学を学べる学部は日本国内では本学部だけです。その希有な環境を十分に活用してほしいと思います。

2. イスラーム学の基本的な学び

イスラーム学に関する基礎科目として「イスラーム学入門Ⅰ・Ⅱ」「イスラーム聖典概説」「イスラーム史概説」を提供しています。これらの基礎科目において、イスラーム教という宗教とその聖典であるクルアーン（コーラン）とハディース（預言者ムハンマドの言行に関する伝承）について基本的な知識を習得し、ムスリムたちの歴史、社会、文化の概要を学んでください。また、イスラーム学の多彩な研究の課題と動向についても紹介します。

イスラーム学に密接に関連する語学として、アラビア語、ペルシア語、トルコ語を提供しています。アラビア語は、クルアーンが書かれた言語であり、ウラマー（イスラーム宗教知識人）の伝統的な共通語でもあるので、イスラーム学を専門的に学ぶ場合には学習しておくことが勧められます。とはいえ、世界各地のムスリムたちの言語は多様で、アラビア語が必須というわけでもありません。イランや中央・南アジアのイスラーム教を学ぶためにはペルシア語が重要です。トルコやオスマン帝国、中央アジアのムスリムたちを研究しようとするならばトルコ語が必要です。どの時代・地域のイスラーム教とムスリムに焦点を当てるかによって必要な語学も変わりますので、教員とも相談の上、早いうちから計画的に学習してください。ウルドゥー語やマレー語など、神学部が科目を提供していない言語を用いてイスラーム教とムスリムに関する研究を志す場合にも、教員に相談してください。

3. イスラーム学の学びの発展

展開科目

「イスラーム思想」「イスラーム教の諸宗派」「初期・古典期のイスラーム教」といった科目では、イスラーム教の神学や法学、神秘主義（スーフィズム）などの宗教思想や、シーア派とスンナ（スンニ）派という宗派の形成と発展、初期・古典期（7～12世紀）、中世・近世（13～18世紀）、近現代（19～21世紀）の各時代におけるムスリムたちの文化・社会・政治について深く学びます。内容は専門的になりますが、基礎科目をしっかり学習しておけば、理解するのは難しくありません。「イスラーム原典文献講読」では、ウラマーやスーフィー（イスラーム神秘主義修行者）などがアラビア語などで書き残した書物や論説を原文で読み解いていきます。これは、知識を吸収する学習から主体的な研究へと進むための重要な訓練となります。

トピック科目

イスラーム教の宗教文化の諸側面やムスリム社会の諸問題を取り上げます。例えば、イスラーム教における預言者の位置づけやその一族に対する崇敬、日常生活におけるムスリムたちの宗教意識と信仰実践の変遷やジェンダーをめぐる議論などです。こうしたトピックは、キリスト教とユダヤ教、あるいは日本社会にも共通する要素であり、イスラーム教とムスリムたちの様々な側面に目を向けるとともに、キリスト教・ユダヤ教との類似や相違を知ることもつながります。

演習・卒業論文

上述の科目は、イスラーム教とムスリムたちに関する幅広い知識を提供するように編成されていますが、イスラーム学の全てを講義で網羅することは不可能です。より深く知りたいと思う事柄については、演習科目を履修し、自分で調べて考え、その成果を発表して他の学生や教員と議論するという作業をとおして研究してください。設定する課題は、古典期の宗教思想から現代のムスリムを取り巻く諸問題に至るまで、基本的に自由です。展開科目の「イスラーム原典文献講読」と合わせて履修し、自分が設定した課題について、原典史資料の分析に基づいて考察するという研究の醍醐味を味わってほしいとも思います。そして、その成果を卒業論文にまとめることを強く勧めます。

海外留学

ムスリムが多数派を占める国・地域の高等教育機関との間で、神学部独自の交換留学制度は現時点ではありません。同志社大学としては、マレーシア国際イスラーム大学などとの交換留学制度を運用しており、こうした大学間協定に基づく留学プログラムを活用して、イスラーム学に関する学習・研究を深めることができます。また、クウェート政府奨学金などの学外の支援制度を利用したり、私費での個人留学として、ムスリムが多数を占める社会に暮らしながら、アラビア語などの語学の習熟に努め、彼らの信仰や文化に対する理解の深化に取り組む学生もいます。

4. 進路

一般就職

イスラーム学を専門的に学んだ学生の多くが、一般企業や官公庁に就職します。現在の日本において、イスラーム教やムスリムたちに関する知識だけで就職することは困難ですが、報道、観光、行政、国際援助などの分野で、イスラーム学の知見が必要とされており、イスラーム学を専門的に学んだ経験は、大きなアピールの一つになるでしょう。

大学院進学

イスラーム学研究者を志す学生は、本学部が提供するイスラーム学科目を確実に履修し、各自が志向する学問分野に応じて、他学部の講義も積極的に履修してください。イスラーム教とムスリムたちに関する研究は、宗教学、歴史学、人類学、政治学、経済学、地域研究など、様々な分野で蓄積されています。自分が見定め、その分野のディシプリンを身につけることは必須です。同じ分野で他の宗教や文化を研究している人々と建設的な議論ができることは、研究者としての視野を大きく広げます。語学の学習にも熱心に取り組んでください。原典史資料の批判的実証的分析は、人文社会系諸学問の基盤です。進学先としては、本学の神学研究科―神教学際研究コースの他、他大学、海外の大学院への進学も考えられます。自分の研究課題をよく見定めて、十分な準備を心がけてください。最近では、博士前期課程（修士課程）を修了して、一般企業や報道機関に就職する人も増えています。なお、大学院進学志望者は必ず卒業論文を書いてください。